

見本林の現況と考察

岡崎営林署 尾張森林事務所 森林官 山田茂樹
" 仲谷勝一

1 目的

定光寺自然休養林は、瀬戸市の北部、名古屋市より約1時間程のところにあります。主林木は、暖帯樹で見受けられる天然広葉樹林と、スギ・ヒノキの人工林とがあり、それぞれ合い違った趣を見せています。また、アーチェリー場、野営場、愛知県労働者研修センター等の施設があり、年間60万人もの人々が利用しています。

当見本林も、昭和44年4月定光寺自然休養林の開設に伴い、施設の一貫として昭和41年度から43年度にわたり、109林班り小班2.10haに、外国産・国内産を合わせ針葉樹43種類、広葉樹50種類を植栽し設定されました。

その後25年を経た見本林の現況を把握し、より見本林の充実を図るため、今回の調査及び考察を行いました。

2 調査及び検討内容

(1) 過去の施業状況の調査

当初は、1区画を0.02haとし、外国産針葉樹16種類、同じく広葉樹6種類、国内産針葉樹27種類、同じく広葉樹44種類の合計93種類の植栽を実行しました。

保育作業の経緯は、昭和45年度より林地施肥を4回、昭和44年度から51年度までの間に下刈を8回行いました。

その後、除伐・補植・遊歩道の整備のほか、気象条件・土壌条件が合わず、枯死または著しく成長の悪い樹木については、改植を行ってきました。

(2) 現状調査

① 林分調査

外国産針葉樹では、アメリカ西海岸産のテーダマツなどのマツ類がよい成長を見せており、平均胸高直径24cm・平均樹高15mになっています。見本林以外の国有林にもテーダマツが植えられた林分がありますが、これも同じように良い成長が見られます。また、ヒマラヤ産のヒマラヤスギは、気象条件が合わなかったためか、成長が悪く平均胸高直径8cm・平均

樹高5 m以下となっています。

外国産広葉樹では、アメリカフウがよい成長を見せており、平均胸高直径17 cm・平均樹高14 mとなっています。

国内産広葉樹では、ハンノキ・カエデ類の一部がよい成育を見せていますが、全体的には、あまり成育が良いとは言えない状態です。これは、生存本数が多いため、樹幹が密になっていたことが大きな原因だといえます。

② 施設調査

横歩道は良好ですが、縦歩道は急であり、階段はあるものの老朽化が進み修理が必要になってきています。

案内板の枠も老朽化が進み修理が必要になってきています。

樹名板は、転倒していたり、設置位置が樹木名と合っていないところがあり整理及び修理が必要になってきています。

用途板は、破損していたり、設置されていないところが目立っているため修理及び設置が必要になってきています。

(3) 今後の保育方法等の検討

間伐が必要な樹種は、56箇所で全体の55%

枝打が必要な樹種は、13箇所で全体の13%

補植が必要な樹種は、11箇所で全体の11%

改植が必要な樹種は、16箇所で全体の16%であることがわかりました。

3 結 果

- (1) 成長優良箇所については間伐・枝打が必要
- (2) 成長不良箇所については補植・改植が必要
- (3) 縦歩道には階段の設置・修理が必要
- (4) 案内板・樹名板・用途板の整理・修理が必要

4 問 題 点

- (1) テーダマツ・ヒノキ・スギのように数カ所植栽されているものは、他の樹種で改植をしたらどうか。
- (2) 区画内で混植しているところについては、単一に整理していったらどうか。
- (3) 笹等が繁茂している箇所については、見本林としての修景をよくするために最低年1回の刈り払いが必要なのではないか。

などがわかってきました。

5 まとめ

最後に、当見本林が設定されて25年になるわけですが、現状は、この間の整備が経費や労務問題もあって十分でなかったことが伺えます。瀬戸市近郊として立地条件もよく利用者も多いことから、今回の調査結果を基にして周囲林分も含め整備し、四季を通じていろいろな樹木とふれあいのできる、また、多くの人々に親しまれる見本林にするため今後も取り組んでいきたいと考えています。